

平成 27 年度第 2 回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所** 平成 28 年 3 月 4 日 (金) 13:30~15:30
兵庫県立ひょうご女性交流館 「501」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 18-1
- 2 出席者**
(委員 8 名) 山口委員 平川委員 小林委員 鷗木委員
永井委員 窪田委員 入江委員 井原委員
欠席：平野委員 倉 委員 吉矢委員 尾山委員
小山委員 増田委員 三木委員
(幹事 11 名) ○高永幹事 ○大久保幹事 関 幹事 山本幹事
○西田幹事 小松原幹事 ○清瀬幹事 ○西 幹事
船田幹事 八木幹事
升川 (陪席) ○飛田 (陪席) (○印は代理出席)
欠席：西口幹事 今後幹事
(教育委員会) 高井教育長
(事務局) 北中主幹 南中主幹 小和主任指導主事 岡本主任指導主事
- 3 開会あいさつ** 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介** 名簿による委員自己紹介及び幹事紹介
- 5 署名委員の指名** 署名委員は、会長の指名により、小林委員、鷗木委員に決定
- 6 前回議事録の報告**
平成 27 年度第 1 回スポーツ推進審議会における報告事項 (平成 27 年度事業概要について) 及び審議事項 (兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について) について北中主幹が説明し、承認された。
- 7 報告事項**
平成 28 年度の事業概要について
① スポーツ振興課に関する事業概要について、八木スポーツ振興課長が報告した。
② 体育保健課に関する事業概要について、船田体育保健課長が報告した。
③ 障害者支援課に関する事業概要について、関障害者支援課長が報告した。
- 8 審議事項**
(1) 平成 28 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について
北中主幹より、平成 28 年度スポーツ振興団体に交付する補助金の内容について説明し、承認された。

(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

北中主幹より、「兵庫県スポーツ推進計画」の平成 26 年度進捗状況及び課題について説明した後、「ライフステージに応じたスポーツ（運動等）の推進」及び「ジュニア期の競技力向上」の具体的な方策について協議した。

9 その他の事項

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項 平成 28 年度の事業概要について」

【山口委員】

- 障害者支援課の事業の中で、企業等との協定を結んで連携を深めているとのことだが、具体的にはどういうことか。

【関障害者支援課長】

- 障害者のスポーツ推進拠点に、玉津と播磨公園都市に 2 つの体育館があるが、障害者のスポーツ環境が少ないのが現実であり、14 の特別支援学校に対し、土・日に体育館・グラウンドを使用させていただき協定を結んだ。

併せて、企業・法人等呼びかけ、社会福祉事業団、出石精和園、更には、株式会社アシックスと協定を結んだ。今後、更なる数を増やしていきたいと考えている。

【平川委員】

- 障害者スポーツを運営していくにあたって、指導者の数や現状は。

【関障害者支援課長】

- 日本障害者スポーツ協会と連携を図り、公認の障害者スポーツ指導者養成講座を毎年実施している。現在、兵庫県下で 1100 人が登録されており、2 割程度が活躍している。県としては、地域の障害者スポーツ推進する観点で、障害者スポーツ出前講座の開催など、指導者が活躍できる場を増やしていきたいと考えている。

【井原委員】

- 文科省でインクルーシブ教育として、地域で軽度の障害を持っている子どもを地域で抱えていこうとする取り組みがなされているが、特別支援学校のグラウンド開放にあたって、クラブ化という取り組みはあるのか。

【関障害者支援課長】

- 障害者がスポーツをする場所が少ない現実がある中で、各小学校区で活発に展開されている「スポーツクラブ 21 ひょうご」と連携し、障害の有無に関係なく実施できる競技の普及やバリアフリー等、障害者が参加しやすい環境づくりを積極的に進めている。

【平川委員】

- 「スポーツ立県ひょうご創出プロジェクト」事業を進めるにあたって、今までと違う点は何か。また、関西マスターズスポーツフェスティバルでのオープン化はなかなか難しいことであるが、オープン化に向けた取り組み状況はどの様なものか。

【八木スポーツ振興課長】

- 「スポーツクラブ 21 ひょうご」と、企業や大学、障害者スポーツとの連携の仕方について共通理解を図ってきた。28 年度は、積極的に連携を進めていきたいと考えている。オープン化については、関西マスターズフェスティバルの趣旨を競技団体に理解いただき、一定に進んでいる。

【嶋木委員】

- 障害者スポーツの普及や定着を図っていく中で、企業・大学に場所の提供と共同で練習する働きかけという発言があったが、共同というのはどういうことか。

【関障害者支援課長】

- 兵庫の企業や大学のトップチーム等に出向いての合同練習や、逆に、障害者スポーツの拠点に来ていただいていたのコーチングを考えている。また、マルチサポート事業として、技術力以外にも、理学療法士や義肢装具士にも来ていただき、トータルにサポートできる練習拠点を整備していこうと考えている。

【鵜木委員】

- どの様に共同すれば良いかを具体的に考えていくことによって連携の可能性が広がり、地域で障害者の人々が活動の場を広げることが出来るのではと思う。

【小林委員】

- 併せて、マルチサポート事業と言うことで、専門家を通じて、戦法等のデータを収集し、競技力の向上にも繋げてもらいたい。

【入江委員】

- 東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿について、どれくらいの規模、県内箇所を想定しているか。また、神戸マラソンで、インバウンドを促進していこうという話もあるが、ホテルなど県外からの受入体制を今後どの様に考えていくのか。

【八木スポーツ振興課長】

- 事前合宿招致については、何ヶ国という目標設定はしていない。公には、出来るだけ多くの国をお招きしたいということで動いている。

【升川スポーツ振興課参事兼神戸マラソン事務局長】

- 神戸マラソンにおけるインバウンドの促進で、宿泊地が不足するなどの問題が起こっている。国内の参加者につきましても確保しにくい状況である。県内の神戸以外の観光地を含め、広域的にパッケージングをしたインバウンドを促進してはとのご意見も頂いているので、それも踏まえた誘客を検討しているところである。

【窪田委員】

- 県立高等学校の訪問指導の内容について詳しく知りたい。

【船田体育保健課長】

- 指導主事が、6月から11月にかけて県立学校を訪問している。内容は、授業や研究協議での指導助言及び、体育施設設備や保健室の状況等、安全面の確認をしている。

【永井委員】

- 未来のスーパーアスリート支援事業での対象選手の選考基準と医科学マルチサポートの内容について、また、体力アップサポーターについて、どんな人材が小学校に派遣されているのかとその内容について、更には、健常者の車いすマラソンへの参加や効果について教えていただきたい。

【八木スポーツ振興課長】

- 選考基準は、全国大会でベスト8以上の成績を収めている、または、これに準じた日本代表やユース代表である等を条件としている。マルチサポートは、フィジカルサポートやメンタルサポート等、競技団体の提案に応じて、内容を精査し、支援している。

【船田体育保健課長】

- 体力アップサポーターの派遣は、地域のスポーツ指導者、或いは、中学校、高等学校の体育の教員にお願いして、運動のコツなどを指導して頂いている。基本的には、学校が希望する領域(ニーズ)としており、器械運動や体づくり運動等が多い。本県は、投能力が課題であることから、今後は特に、投能力の向上に取り組んでいきたいと考えている。

【関障害者支援課長】

- 篠山の車いすマラソンでは、健常者の方も、ハーフマラソンとフルマラソンに参加出来ることとなっている。なぜ、健常者に参加をいただくようになったか、篠山車いすマラソンの参加者の拡大、更には理解の促進という形を願って昨年度から始めている。

(2) 「審議事項(1) 平成 28 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について」

意見なし

(3) 「審議事項(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

① ライフステージに応じたスポーツ（運動等）の推進

・スポーツをする子どもの増加に向けて

【井原委員】

- 子どもの運動実施率は、小学校1年生が低く、そこから学年が上がるにつれて向上するが、4年生以降、下がってきている。幼児期の運動の習慣がないことが影響していると感じているが、幼稚園への県としてのアプローチをお願いしたい。

【船田体育保健課長】

- 幼稚園・小学校教員体育実技指導力向上事業で、遊びの中身も入れた研修等を展開している。また、従来、小・中・高の教員を対象に実施する学校体育実技指導者講習会の日程を2日から3日に拡大し、「運動遊び」を加え、幼稚園の先生方にも参加いただくことにしている。

【平川委員】

- 幼少の体力に関連する事業が展開しているが、小学校や幼稚園の先生が本当に理解し、最終的に、子どもにわかる言葉で伝え、意識を持たせなければ、体力は上がりにくいと思っている。

【船田体育保健課長】

- 先生が、如何に子どもたちに教えて、運動は楽しいな、やってみようかなという気持ちにさせることが重要だと考えている。体力アップサポーターの指導による運動のコツ等をホームページにアップし、先生が必要なときに活用できるようにすることを考えている。

【山口委員】

- 幼稚園・小学校の芝生化が進んでいる豊岡市で「幼児の運動遊び全県大会」を実施し、芝生の上で走り回っているところを他市町の先生に見せると、インパクトが大きいと思うので、その様な事業を一度検討していただけたらと思う。

【永井委員】

- スポーツの原点は、遊びである。遊ぶことの効果が、学習やクラス運営にも現れると思うので、原点に戻るようなPRを学校に対して行うことも大切なのでは。

・成人のスポーツ（運動）実施率の増加に向けて

【平川委員】

- 成人の実施率を見ると、大都市群の実施状況が良い。逆に、小・中都市では、実施状況が低いことから、大都市以外の所に対する方策が必要だと思っている。

【八木スポーツ振興課長】

- 要因の1つに、都市部は、駅まで、また、駅から徒歩で通勤、通学をする人が多く、郡部では車の移動が多いことが考えられる。そのあたりを考慮した方策を今後検討していきたい。

【山口委員】

- 成人の実施率は高い値を示している。このベースラインは「兵庫のゆたかさ指標」を活用しているとのことだが、以前は、「県民スポーツ意識調査」を活用していた。その時と質問項目のワーディングが違っている。これが影響しているのではないかと推測しているが、「県民ゆたかさ指標」を使うようになったのは何時からか。

【八木スポーツ振興課長】

- 「県民スポーツ意識調査」は 23 年度に実施し、それ以降は「兵庫県のゆたかさ指標」を活用している。

【山口委員】

- 3年おきに内閣府が実施する「体力・スポーツに関する調査」は、同じ質問項目で行っている。比較が難しくなるので、項目の変更は慎重に対応が必要である。

【鶴木委員】

- 子どもの頃の運動習慣は、成人の運動習慣に大きく関わっている。幼児期において、適切な運動を受ける機会ができなかったため、運動習慣が身に付いていないケースが見受けられる。また、中学から高校、高校から大学の接続の期間に運動する機会から離れ、そのまま運動を継続しなくなるケースも見受けられる。成人のスポーツの実施率の増加に向けては、ライフステージにおいて、色々な状況下にある方たちが運動をしやすい環境づくりが必要で、その働きかけが必要なのではと思う。

② ジュニア期の競技力向上

【小林委員】

- 競技力向上は、県下全地域での均一な競技力向上を図ることと、一貫指導を充実させるということが重要である。その様な意味で、指導者が情報を共有し、より良い指導が出来るシステムづくりが必要である。更に、有望新人の発掘という観点から、競技間で転向を考えるプログラムを作成することで、競技人口が少ないスポーツでの活躍に光が見えてくるのではないかと思う。

【八木スポーツ振興課長】

- 一貫指導については、学校の指導者や競技団体にシステムづくりを呼びかけていきたいと思う。競技間の転向については、県体協と連携した「未来のスーパーアスリート支援事業」の中で導入している。

【山口委員】

- ライフステージ毎に指導者が変わり、理念が変わってくるのが日本のスポーツ界に弱点である。スポーツ振興基本計画の柱に一貫指導が挙げられ、総合型クラブもこれに習ったわけですが、現実はそのに繋がっていない。今、指摘されたように、指導者の理念が共有される指針が出来ているのかは重要である。

【平川委員】

- 全中の入賞者が減少しているが、義務教育において部活動が制限されレベルが下がった等、相互関係は分析されているのか。

【船田体育保健課長】

- 学校部活動を、子どもたちが生涯を通じて運動を継続する基礎を培うという観点から、過度な練習によるバーンアウトを防がなければならないと考えており、定期的に休養することに力点を置いて指導している。本来、部活動は、生徒の自主的・自律的な活動であり、その中で競技力・体力が高まればと考えている。

【鶴木委員】

- トップアスリート発掘に向けた様々な取り組みが進められているが、県外流出などの課題もある。そこで、発掘してきた選手が兵庫県に残り、県内でトップレベルが目指せる環境を整えていくことが大事だと考えている。「未来のスーパーアスリート支援事業」等があるが、ジュニアプレーヤーたちが兵庫県に留まる方策・考えを教えていただきたい。

【八木スポーツ振興課長】

- 「優秀な指導者の確保」「練習拠点の整備」の2点が整えば、流出は止まると思っている。競技先進国に指導者を派遣し、トップ指導者の育成を図る「スポーツ指導者海外派遣事業」も展開しているので、引き続き、競技団体等と連携を図りつつ、解決に向け取り組みたいと考えている。

【山口委員】

- クライミングが、オリンピック種目になった。県立夢野台高校にクライミングウォールがあるが、この様な設備が学校の中につくられているということは素晴らしいことと思う。夢野台高校以外にもこういう学校はあるのか。

【船田体育保健課長】

- 県立柏原高校にもある。夢野台高校では、国体に出場した生徒もいる。

【入江委員】

- 平成23年あたりは、全中の入賞者数が多いが、何か理由があるのか？

【船田体育保健課長】

- 平成23年に近畿で全中が開催され、地元での開催による影響があるかと思う。

【入江委員】

- 幼児期の運動について、兵庫県には、「スポーツクラブ21」という団体が兵庫に素晴らしい団体があるが、関係者に子どものスポーツや運動遊びの講習を実施し、広めていくのも良いのでは。

【八木スポーツ振興課長】

- 「スポーツクラブ21」の事業の中で、ファミリースポーツとして、「親子で参加するイベント」を行っており、これからも進めていきたいと考えている。

(4)「審議事項(2) その他」

意見なし

10 閉会あいさつ 八木スポーツ振興課長

11 閉 会